

お忙しくても、約 2 分間で読めます

# ハートフル・ワード (心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

## 経営者への活きた言葉

モノはプロセスのなかで「共通の善」を創造する 野中 郁次郎（一橋大学名誉教授）

1. 日本経済を支えてきたモノづくり企業が新たな局面に入ろうとしています。日本のモノづくり企業は元来、プロセス志向です。生産効率の改善を決して止めずに、革新を続けていく。道を究める、と言ってもいいほど日本の企業は優れている。これからは、一つのモノをモノとして固定化して見ることなく、通常のモノの境界を超えた、より大きな新しいプロセスの一部としてモノを捉え直す「コトのモノづくり」が必要だと考えています。モノづくりだが、コト的に発想する。たとえばエコ製品は、市場分析の結果を拠りどころにするのではなく、普段はなかなか見えない、地域や社会におけるより具体的な人とモノの関係性を洞察しなければ、生み出すことはできません。
2. そして関係性のなかでモノづくりを捉え直すのに基準となるのが、「共通の善」。地球や社会のエクセレンスにつながるものです。高い志をもって「共通の善」を追求すれば、ニーズやウォンツのわからない顧客にも向うことができ、顧客とイノベーションを共創していくことができるのです。
3. 自社にとって何が「共通の善」かを見極めるためには、創業以来実践してきた理念、歴史や伝統を絶えずたどりながら、社会との関係性のなかで企業として何がよいことかを、常に考えていかなければなりません。企業の生き方に、「共通の善」は必ず含まれています。現実には動いています。万物流転。生き生きとしたプロセスこそ、実在なのです。モノはプロセスのなかで立ち現れて変化し、「共通の善」に向けて創造されていくのです。  
(参考：「週刊東洋経済」2008年1月12日号)

## 経営者のための理念・哲学

### 人生の四季をどう生きるか

1. 地球が公転するごとに季節の四季は巡る。何度でも巡ってくる。だが、青春・朱夏・白秋・玄冬一人生の四季は一回限りである。人は皆いずれかの季節を、いま生きている。中には若くして逝き、白秋・玄冬を見ずに終わる人生もある。だが吉田松陰は、人は10歳で死んでも、その人なりの人生の四季を生きて死ぬのだ、といっている。29歳の若さで生涯を終えた松陰自身が、人生の四季を堪能して旅立った人なのだろう。
2. 年齢的にいえば、青春とは30歳くらいまでのことになるだろうか。朱夏は30歳から50歳。白秋は50歳から70歳あたりか。玄冬はそれ以降となろう。人は生まれ、若々しく成長し、そして老い、死ぬ。厳然たる事実である。この事実を事実として受け止め、そのすべての季節をどう生きるか、各人の心の工夫が問われるところである。  
(参考：「致知」：2008年4月号)

## 海外事情

### 生活スタイルが変化（米国）

1. 「ゴルフ大国」米国で、ゴルフ人口の減少が続いている。米国のゴルフ人口は、2000年の約3000万人から減少が続いており、現在は約2600万人にまで落ち込んでいる。プレー頻度でも、ゴルフを年25回以上する人は、2000年の690万人から2005年は460万人、年間8回以上は、2000年の1770万人から2006年は1550万人へとそれぞれ減った。ゴルフをしなくなった理由は、「時間が無い」「仕事が忙しい」「年金が減った」などの経済的理由が多い。また、父親が週末に家族を置いてゴルフに行くのを許してもらえない世相の変化もあるという。
2. このため全米で約1万6000カ所に達したゴルフ場も、数百カ所が閉鎖に追い込まれている。また、テニスやハイキング、サイクリング、スキーなど、アウトドアスポーツ全体の競技人口も減少傾向にあるとされ、休日はスポーツで過ごす傾向が強かった米国人の生活スタイルに変化が生じている。  
(参考：「WEDGE」2008年4月号)

## 古典に学ぶ

### 志ある士

「志有る者は利刃の如し、百邪辟易す。志無きの人には鈍刀の如し。童家も侮かんす」

(訳) 志有る者は鋭利な刃物のようなもので、すべての魔物も尻込みする。志なき者はなまくら刀のようであり、子供までがばかにする。  
(参考：佐藤一斎「言志四録」：PHP文庫)